

平成28年度 学校評価

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
地域に根ざし、生きる力をはぐくむ教育の推進 —自立・協働・創造— 自立・・・自分らしさを伸ばしていける子 協働・・・助け合って 共に生きる子 創造・・・よりよい生き方を実践する子	I 自立して未来に挑戦する態度の育成 II 子どもたちの学びを支える仕組みの確立 III 「生きる力」を育む教育の推進 IV 家庭や地域と一体となった安全・安心で開かれた学校づくり

領域	評価の観点	評価項目	学校関係者評価 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善
学校運営	豊かな人間関係をはぐくむ教育活動の推進	あらゆる学校生活場面を通じての自尊感情の育成	Aが適切な評価である ・子どもの98%、保護者の99%が「友だちのことを大切にしている」と回答していることは大いに評価できる。 ・授業や行事などを通して、一人一人の居場所づくりや絆づくりに職員がチーム黒井となっており取り組まれている。 ・今後も全ての子どもが、学校に行くことが楽しいと感じ、誰からも大切にされている存在であることを認識するとともに、一人一人のよさや可能性が一層引き出される学校づくりを組織的に推進してほしい。
		いじめ・不登校の未然防止、早期発見、即対応	Aが適切な評価である ・児童会役員を中心とした朝の挨拶運動、いじめゼロ運動など人権を尊重する取組が自立的・計画的に推進されている。 ・日々の子どもに対するかかわりやいじめアンケートなどにより、いじめの早期発見と組織的な対応に努められている。 ・子どもや保護者との教育相談活動が、定期的または適宜に行われていることにより、登校しにくい児童が減少している。 ・80%以上の子どもが、普段から家族とよく会話をしていると答えており、保護者が子どもの変化にいち早く気づく要因となっている。 ・子どもや保護者との信頼関係を一層深めるとともに、家庭や関係機関と一体になって、いじめや不登校の未然防止、早期発見に今後も努めてほしい。
課題教育	ふるさと学の推進	「黒井城まつり」や「黒井型体験学習」を通じた地域に対する誇りと愛着心の育成	Aが適切な評価である ・オープンスクールや黒井城まつりなどを通して、子どもたちが生き生きと学校生活を送っている様子が伝わってくる。 ・県立氷上高校との計画的な交流も黒井小ならではの取組である。 ・平成丹波塾やいきいき黒井タイムなど、自治協議会との連携も円滑に進められている。 ・来年度も地域や保護者と連携して、ふるさと学を積極的に推進してほしい。
教育課程	確かな学力の確立	「わかる、できる」が実感できる授業づくり	Aが適切な評価である ・国語で94%、算数で87%と、ほとんどの子どもが授業がよくわかると答えており、「わかる・できる」が実感できる授業づくりが実践できていると考えられる。 ・ノートに教師の評価が適宜記入されているなど、個に応じた指導ができている。 ・学んだことを確認したり、活用したりする時間を指導過程の中に位置づけ、さらに意欲的に学習に取り組む子どもの育成を図ってほしい。
		家庭と連携した生活リズムづくりと家庭学習の充実	Cが適切な評価である ・各学年に応じて「家庭学習のてびき」が発行され、家庭と連携した取組が推進できており、約70%以上の子どもが、学年の目標の時間以上家庭学習をしている。 ・活用力を伸ばすため、家庭学習の課題を工夫する必要がある。 ・読書習慣の確立のため、丹波市立図書館との連携や親子での「家庭読書の日」の実施など、家庭とも連携して進めていく。 ・生活習慣の乱れが、学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとされる。今後も生活習慣の確立に向けて、家庭と連携して取り組んでほしい。
自己評価の実施方法についての評価			
1学期に保護者と児童に教育アンケートを実施し、学習に対する意欲や生活実態を調査した。その結果を地区懇談会「ひとみ輝く黒井っ子を育てる会」で提示し、保護者、地域住民、教職員などの参加者が子どもたちの生活や学力の向上について話し合う機会を設けることができた。 2学期にも再度アンケートを実施し、その結果を1学期の結果と比較し考察されているので、取組の成果や課題が把握しやすくなっている。3学期には、成果や課題を考察したものを、保護者に公表し、課題や改善点を示すなど、適切に情報提供がなされている。			
学校関係者評価のまとめ			
豊かな人間関係をはぐくむ教育活動の推進については、様々な活動を通して自尊感情や自己有用感を高めるとともに、子ども同士や子どもと教師との絆づくり、信頼づくりが構築できている。 ふるさと学の推進については、「黒井城まつり」などの黒井型体験学習を通して、地域の自然、歴史、産業、人とのかかわりなど、発達段階に応じたふるさと意識の醸成が図れている。 確かな学力の確立では、約9割が授業はよくわかると答えており、「わかった」「できた」が実感できる授業づくりが実践できている。家庭学習や家庭読書など、家庭との連携の強化により、主体的に学習に取り組む意欲や態度の育成に一層努めてほしい。			